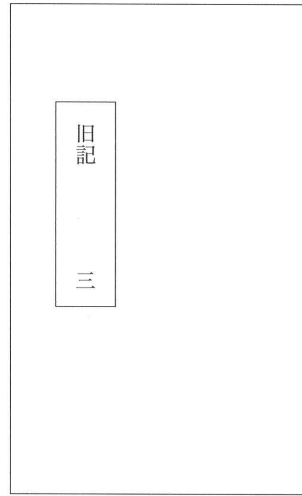


③旧記三(家督)

表紙



〔朱書〕

一、大伝馬町式丁目忠右衛門悴忠次郎病氣ニ御座候ニ付、忠右衛門四年以前相果候節、忠次郎進退之儀五人組中を頼置候遺言之通各支配被致候処、今度算用合不埒成旨申掛御公儀様迄御訴詔申上、去月廿七日之御差紙頂戴仕、何茂江付置候処、我等五人組十左衛門・十兵衛、両町之年寄吉右衛門・十郎左衛門取扱ニ而双方立合勘定仕候処、毛頭相違無御座候ニ付、内証ニ而相濟申候、就夫御公儀様江濟手形差上申候、以来忠次郎進退・算用之儀ニ付、少も違乱申間敷候、為後日手形仍如件

貞享元年子九月

大伝馬塩町

善右衛門 印

名主

平八殿

〔朱書傍注は省略〕

- 〔一〕 一、大伝馬町式丁目忠右衛門悴忠次郎家督之儀ニ付証文取置候事
- 〔二〕 一、通旅籠町七兵衛店千之助家督之儀ニ付証文取置候事
- 〔三〕 一、同町徳力久兵衛遺言状并言上御帳付之事
- 〔四〕 一、大伝馬塩町半右衛門女房よし方より浅草瓦町平七江相掛り候跡式出入言上御帳付一件

〔朱書〕

- 〔五〕 一、下船横町成川太郎治家督出入并言上御帳付一件
 - 〔六〕 一、大伝馬町式丁目美濃屋太兵衛遺言状并言上御帳付之事
 - 〔七〕 一、遺跡御帳付猥りニ相成候趣被仰渡之事
 - 〔八〕 一、遺跡御帳付并家督弘之儀御触流願之事
 - 〔九〕 一、同断御帳ニ可相附儀不相附儀ケ条書窺之事
 - 〔十〕 一、町人病死後其子幼少ニ付後見相附候儀御尋并返答書之事
 - 〔十一〕 一、四谷下名主悴見習勤願并家督願一件
 - 〔十二〕 一、四谷伝馬町御能拜見罷出候人数御銭高少候誤御尋并返答書之事
- 〔朱書〕
- 一、通旅籠町七兵衛店千之助祖母、新大坂町伊右衛門店千之助叔父吉兵衛店請ニ立并後見仕候処、千之助祖母旧冬より相煩当七月六日相果申候、然所叔父吉兵衛計申候間祖母遺言状を認家主七兵衛江預ケ申候由、其上千之助義範末ニいたし折檻等仕候由ニ而、同十九日千之助并他所ニ縁付罷在候千之助母御訴詔申上、御差紙頂戴仕、同廿七日御内寄合江双方被召出御穿鑿之上、叔父吉兵衛認候遺言状千之助祖母遺言状ニ紛無御座候ニ付、遺言状之通自今以後千之助家督ニ一切構申間敷候由被為 仰付候、千之助後見之儀ニ付千之助父方之親類

御尋被成候処、老入茂無御座候、叔父吉兵衛弟相州寺山之百性利兵衛（註）与申者御座候由申上候得者、呼申様ニと被為 仰付、則呼ニ遣、当月五日右之利兵衛參候ニ付御訴申上候得者、同九日安房守様御内寄合江可罷出旨被為 仰付候ニ付、双方御内寄合江罷出候処、叔父吉兵衛・同利兵衛ニ後見被為 仰付候、其上千之助祖母跡式在物双方名主・家主・五人組立合相改、重而出入無之様仕、御帳ニ付可申旨被為 仰付候、依之双方家主・五人組・名主・叔父吉兵衛・同利兵衛・判形仕候源兵衛立合有物相改申候所、金子五拾兩千之助家主七兵衛・五人組之内小兵衛与申者ニ家質ニ而預ケ置申候、金子拾五兩家主七兵衛ニ預ケ置申候、千之助方ニ有物脇差四腰・着類三十六色・商売木綿切ニ而七拾七色御座候、右之通双方家主・五人組・名主并叔父吉兵衛・同利兵衛・親類源兵衛・千之助立合相改申候所相違無御坐候

元録四年末八月十七日

- 通旅籠町千之助家主
- 七兵衛
- 五人組
- 十兵衛
- 同
- 八兵衛
- 同
- 三郎右衛門
- 同
- 小兵衛
- 千之助
- 千之助親類
- 源兵衛
- 千之助後見叔父
- 利兵衛

一、我等姉去春中より相煩当七月六日相果候ニ付、私後見仕罷在候処、利不尽ニ折檻等仕、其上私計ニ而姉遺言状認家主七兵衛殿江預ケ置申候由ニ而、千之助并他所江縁付罷在候右千之助母、先月十九日御訴詔申上御差紙頂戴仕、同廿七日御内寄合江双方被召出御詮議之上、私姉遺言状ニ紛無御座候ニ付、遺言状之通千之助母儀姉跡式ニ構申間敷由被仰付候、千之助後見之儀、私弟相州寺山村罷有候利兵衛呼申様ニと被仰付、則呼ニ遣当月五日罷越候ニ付御訴申上候得者、同九日安房守様御内寄合江可罷出由被仰候ニ付、双方御内寄合江罷出候処、私弟利兵衛并私儀千之助後見仕候様被仰候、其上姉跡式出入無之様各御立合被成重而御帳ニ附申候様ニと御意被遊候、依之姉跡式有物借□相改御書上被成少も相違無御座候、又姉相果候より廿六日分我等取替候入目御勘定被成、銀五拾七匁式錢五貫四百八文慥請取申候、自今以後千之助後見之儀、龐末ニ不仕見そだて可申候、若不沙

- 同叔父
- 吉兵衛
- 吉兵衛家主
- 伊右衛門
- 五人組
- 三右衛門
- 同
- 久右衛門
- 同
- 太左衛門
- 名主
- 彦左衛門
- 名主平八代
- 伊兵衛

汰仕候か又者押領ケ間敷儀仕候ハ、如何様ニモ 御公儀様江可被仰上候、為後日仍如件

元録四年未八月廿日

新大坂町伊右衛門店
千之助叔父 吉兵衛
同 利兵衛

名主平八殿名代

伊兵衛殿

名主 彦左衛門殿

両家主

五人組衆中

〔三三〕
〔朱書〕
〔脱カ〕

通旅籠町徳力久兵衛遺言状并言上御帳付

一、金五拾両者おさんニ付横町仁兵衛殿江御返し可被下候、若おさん後家を立候而勘助をそだて可申与申候共、是非共仁兵衛殿江御返しはのミ頼候

一、金五拾両半兵衛ニ遣候、半兵衛儀今より後者勘助親分ニ被成、何事も三左衛門殿相談被成可被下候

一、跡式之家屋敷・金銀・店、不依諸事勘助ニ譲り申候

一、錢箱之内ニ金子貳百両御座候、まめ板少々・判形・帳面御座候、為後日仍如件

元録九年八月九日

徳力久兵衛

橋本三左衛門殿
倉田半兵衛殿

一、六拾五両之手形浅草より參候而有之候間、是者三左衛門殿江御返し可有之候

一、四拾両者弔金与存候而半兵衛方江預ケ申候、五十日立候而此方を仕廻伝馬町江引越可被成候、以上

〔三三〕
〔朱書〕
久兵衛悴勘助後見之儀言上御帳付

一、通旅籠町家持勘助・五人組善兵衛・伊左衛門・名主勘解由申上候、私共五人組之内勘助父久兵衛六年以前病死仕候処、勘助儀幼少ニ付、手代半兵衛後見仕商等致罷有候処、半兵衛儀も去年病死仕候ニ付、此度後見之者御申上候所、昨日御内寄合江被召出御詮議之上、向後半兵衛相手代庄兵衛後見仕商売仕、諸色勘定等者勘助母方之祖父新大坂町伊右衛門店仁兵衛并伯母婿浅草材木町三左衛門両人立合勘定可仕旨被仰付候、依之右之段言上帳ニ記置候様ニ被仰付候、為後日申上候由右之者共申来候

元録十四年巳五月十九日

通旅籠町

家持

五人組

同

名主

〔新大坂町〕
新大坂町伊右衛門店

勘助祖父

浅草材木町

勘助手代後見

勘助家守

勘助

善兵衛

伊左衛門

勘解由

仁兵衛

三左衛門

庄兵衛

小右衛門

久兵衛跡目勘助諸書物改候書付

一、通旅籠町家持勘助五人組善兵衛・同伊左衛門申上候、私共五人組之内勘助儀当年九歳ニ罷成、母一所ニ罷在候処、母病氣故手代庄兵衛与申者茶商売仕候処、親久兵衛六年以前病死仕、手代半兵衛与申者

勘助後見仕候処、半兵衛儀も去年九月病死仕、店・商売物者庄兵衛

ケ置申候
右之通、今日双方立合相改置申候、為後日仍如件

元録十四年巳五月廿三日

庄兵衛
三右衛門
仁兵衛

町九右衛門店清七与申者、勘助所帶諸事共差図仕候ニ付、様子相尋候得者勘助祖父久兵衛与申者之主人筋之由申候而勘助身上差図仕候、勘助母方之祖父仁兵衛与申者新大坂町伊右衛門店ニ罷在候、是等を差置差図仕候段奉伺候、勘助家屋敷・居宅五間口并本石町四丁目々ヶ所・神田横大工町々ヶ所・同所田町々ヶ所都合四ヶ所所持仕候、尤親久兵衛遺言状之儀者浅草材木町三左衛門与申者方ニ預り置申候、則清七・半兵衛・三左衛門并勘助母方之親類共立合封印仕候由ニ御座候間、乍恐御披見被遊、勘助身上何成共差図仕候者被為 仰付被下候ハ、難有可奉存候、以上

元録十四年巳五月十三日

五人組

善兵衛

同

伊右衛門

家守

小右衛門

名主

勘解由

御奉行所様

右之通 保田越前守様江以書付御伺申上候処、十八日御内寄合江被召出、松平伊豆守様御立合御詮議之上、自今以後勘助手代庄兵衛ニ後見仕商売諸事支配仕、勘定之儀者三左衛門・仁兵衛立合可承旨被仰付候、勘助父久兵衛遺言状三左衛門方江封候而預ケ置候、久兵衛錢箱ニ入置候売券状并金子之手形有之候鍵庄兵衛ニ預ケ置候、久兵衛印形之儀者三左衛門ニ預

勘助父久兵衛遺言状ニ封印致候人数

勘解由殿
伊左衛門殿
善兵衛殿

本所々ツ目渋谷権藏 明神下伊勢屋弥兵衛 浅草材木町錢屋三左衛門
下谷池端丹波屋清七 新大坂町銅屋仁兵衛 勘助手代庄兵衛
同利右衛門

巳五月廿三日

利右衛門儀者何方ニ而封印御切被 弥兵衛儀者昔手代、久兵衛 権藏儀ハ勘助成候共向後申分無之由、前方より 衛死後勘助母方之伯母 父方之從弟也
〔四〕 断有之候 婿也

一、浅草瓦町平七申上候、大伝馬塩町半右衛門女房よし親浄心遺言□之儀ニ付、当正月十六日右よし御訴詔申上候ニ付、当月四日双方被 召出御詮議之処、よし申上候者、親浄心讓浅草茅町式丁目表京間五間口裏行町並之家屋敷ト外ニ金三百五拾両有之由申上候、浄心儀五年以前丑五月九日病死仕候、其節遺言書者不及申慥成儀無之段、祖母妙清申上候ニ付、昨九日 伊豆守殿御内寄合江双方被召出御吟味之

上、淨心讓狀茂無之其外正敷証拠も無之候ニ付、よし申上候所御取上ケ不被遊候、尤私養父十兵衛申置候通、金三拾兩をよし方江相渡可申旨被仰付候并右茅町之家屋敷之儀者養父十兵衛遺言仕置候通私女房之妹くまニ不残被仰付難有奉存候、依之双方今日立合濟口証文差上申候間、為後日申上候由、右之平七・同人女房妹くま・祖母妙清、五人組長右衛門・孫兵衛・伝兵衛・又右衛門、名主利左衛門、大伝馬塩町半右衛門女房よし・夫半右衛門、五人組長左衛門・弥三郎・長兵衛、名主勘解由同事申事二候

元録十四年巳二月十日

右大伝馬塩町半右衛門女房よし方より浅草瓦町平七江掛り候跡式出入言上御帳ニ記候扣也

〔朱書〕
「五」 下船横町成川太郎治家督出入并言上御帳付一件

乍恐以書付申上候

一、下船横町八右衛門与申者粹長十郎儀、同町ニ罷有候長左衛門与申舅方江養子ニ遣候処、八右衛門方江男子無御座候ニ付長十郎粹太郎治与申孫を養子仕、八右衛門所持之家屋敷五間口并家財太郎治江讓狀仕、五年以前病死仕候、其以後太郎治親長十郎茂同年病死仕候、太郎治儀当年十一歳ニ罷成候ニ付母一所ニ只今迄罷在候、右長十郎相果候砌、八右衛門甥大伝馬町壱丁目三十郎・庄兵衛・長十郎後家兄室町三十郎・同弟平松町庄右衛門并下船横町五人組立合、八右衛門遺言状・沽券状庄兵衛方江預ケ置申候、長十郎手代庄次郎与申者ニ印形・

書付等預ケ置、家守并店・商売物庄次郎ニ支配為致申候所、此度後家申候者、庄次郎儀仕方不埒ニ候由ニ而暇遣申候、然所庄兵衛・三十郎申候者、庄次郎仕方宜御座候間、太郎治祖父八右衛門讓置候家屋敷家守并店支配共庄次郎ニ申付、太郎治儀八右衛門跡目江引取、庄次郎ニ後見為致、八右衛門跡目相統仕度旨三十郎江庄兵衛申候、後家儀者八右衛門方之家屋敷・店共ニ庄次郎ニ支配為致間敷旨後家申候ニ付、内証ニ而埒明不申候ニ付乍恐奉窺候、以上

元録十四年巳十一月

右之通、八右衛門方親類、後家方思日相違有之ニ付、後家御訴ニ可罷出段申候ニ付、則十一月廿三日双方召連 保田越前守様江右書付を以御訴申上候得ハ、同廿五日双方被召出御詮議之上、勘定被仰付候、然処後家惣勘定願由申候ニ付、十二月二日又候御窺申候得者、後家達而願申候ニ付、長左衛門相果候以後五年以来惣勘定被仰付候、然ル処下船横町五人組之者共申候ハ、五年以来勘定之儀後家兄室町三十郎・同弟平松町庄右衛門・太郎治親類三十郎・庄兵衛四人立合、年々両度宛勘定極、後家方江清帳相渡置相違無之間、後見ニ致異儀庄次郎儀、太郎治方屋鋪家守相退候様和談之上、後家方より一通差出候間、其通十二月十日又々申上候得者、十八日 松前伊豆守様御内寄合江可罷出旨被仰付候

乍恐書付を以申上候

下船横町長左衛門五人組

七郎治
作兵衛
同
善兵衛
同

同町太郎治五人組

彦兵衛

同 八右衛門

同 五郎兵衛

名主 勘解由

右之者共申上候、私共五人組之内平四郎家守長左衛門後家儀、手代庄次郎与申者長左衛門死後五年以来商売物・所帯共ニ支配仕候処、後家兄室町三丁目三十郎・同弟平松町庄右衛門并長左衛門親類大伝馬町壹丁目三十郎・同町庄兵衛当七月寄合勘定仕候節、庄次郎義暇遣可申旨後家申候所、商勝手能候間一兩年も差置候様ニと申候得共、是非〳〵暇遣可申由ニ而、七月より九月廿七日迄右四人寄合勘定明、庄次郎ニ暇遣申候、然ル処後家悴太郎治祖父八右衛門与申者同町ニ而表口五間口之家屋敷太郎治ニ讓置申候ニ付、此屋敷庄次郎ニ家守為致可申旨三十郎・庄兵衛申候得共、此儀共ニ後家構候而庄次郎を追払可申由申候ニ付、先月廿三日御伺申上候所、同廿五日被召出御詮儀之節後家奉願候者惣勘定仕度段申上候ニ付、則立合勘定被仰付候得共、五人組之者後家方江異見仕候者、長左衛門相果五年之内毎年後家兄三十郎・弟庄右衛門、太郎治親類三十郎・庄兵衛、壹ヶ年ニ兩度立合勘定仕埒明清帳を後家方江渡置候間相違有之間敷候、其上庄次郎儀当九月無別条暇遣候ニ付、太郎治家守庄次郎者無用ニ可仕旨申達候間、後家承引仕申分〳〵無御座候ニ付、内証ニ而相濟申候、右八右衛門遺言状并売券状、諸親類并五人組立合庄兵衛方江預ケ置候得共、以来五人組江預ケ置、太郎治家屋敷家守之儀、五人組相談仕相付可申候、尤家實共太郎治成人仕候迄者組中致吟味可申候、右之通言上御帳ニ御記被下候様奉願候、以上

元禄十四年巳十二月

下船横町長左衛門

後 家

同町同人粹

太郎治

室町式丁目太兵衛店

三十郎

後家兄

庄右衛門

平松町平左衛門店

三十郎

後家弟

庄兵衛

大伝馬町壹丁目

太郎治親類

同町

同断

右之通十二月十八日 松前伊豆守様御内寄合江罷出候得者、何茂申上候通御詮儀之上無相違被為 仰付、則言上御帳ニ御記申候様被為 仰付候

御奉行所様

一、下船横町名主勘解由申上候、私支配之内平四郎家守長左衛門与申者五年以前致病死、悴太郎治与申当年拾壹歳ニ罷成後家与一所ニ罷在、数年召仕候手代庄次郎与申者、長左衛門名代ニ而家守仕、商売等支配仕罷在候、然ル処太郎治父方之祖父八右衛門与申者、同町ニ而表五間口之家屋敷所持致罷在候、五年以前此者も致病死、右家屋敷孫太郎治ニ讓申候、長左衛門後家兄室町式丁目三十郎・同弟平松町庄右衛門并長左衛門從弟大伝馬町壹丁目三十郎・同町庄兵衛相談之上、右手代庄次郎を八右衛門讓之家屋敷致家守、商等可為仕旨相談仕候処、後家申候者庄次郎兼而商等ニも不埒有之間、暇遣度由申〳〵此五人組之者共召連当 御番所江申上候ニ付、度々被召出御詮儀之所、

後家申上候者長左衛門死後五ヶ年以來勘定相頼候故、打寄勘定可仕旨被仰付候ニ付立合吟味仕候処、勘定少茂相違無御座候、後家願之通庄次郎暇遣、内証ニ而出入相濟申候ニ付、此段又々申上候得者、昨日 伊豆守殿御内寄合江被召連御詮儀之上、八右衛門方より太郎治方江讓置候遺言状・沽券状向後五人組之内ニ預り置、家屋敷・宿賃等者両方五人組并私立合勘定仕候様被仰付、尤八右衛門讓置候家屋敷ニ付、後家并諸親類構申間敷旨是又被仰付、勿論太郎治成人仕候ハ、諸事引渡、重而太郎次家守相極次第御訴可申上候、右之段言上御帳ニ記置候様被仰付候、為後日申上候由、長左衛門後家五人組作兵衛・善兵衛・七郎兵衛并太郎次家屋敷五人組彦兵衛・八右衛門・五郎兵衛同意申来候

巳十二月十九日

下船横町 勘解由
 名主
 長左衛門後家五人組 作兵衛
 同 善兵衛
 同 七郎兵衛
 太郎治家屋敷五人組 彦兵衛
 同 八右衛門
 同 五郎兵衛
 長左衛門 後家
 同人悴幼少ニ付無加印 太郎治
 後家兄 三十郎
 同人弟 庄右衛門
 太郎治違徒弟 三十郎
 同断 庄兵衛

右之通両 御番所言上御帳ニ附何茂連判仕候、祐筆衆御当番

石井藤左衛門殿
 萩原新八殿

売券状之事

一、下船横町北側ニ而、表京間五間口、裏江町並之家屋敷金子三百両永代売渡申所実正也、則名主・五人組・売主出合代金慥請取申候、此家屋敷ニ付、諸親類者不及申子々孫々ニ至迄構無御座候、若横合より六ヶ敷事申者御座候ハ、貴殿江者少茂御苦勞掛申間敷候、名主五人組埒明可申候、為後日売券状証文仍如件

寛文二年壬寅二月二日

名主 助左衛門
 売主 弥次兵衛
 五人組 庄兵衛
 同 又兵衛
 同 温安
 同 長五郎

駿河屋八右衛門殿

書物之覚

一、我等家屋敷・家財、長左衛門悴太郎治讓申所実正御座候、為書物仍如件

元禄九年丙子正月日

成川八右衛門

組 忠兵衛殿
 同 吉兵衛殿
 同 彦兵衛殿
 組中參

書物之覺

一、金子五拾兩・旅茶弁当老組・達磨之絵・金屏風・孫六刀一腰但無銘也
右之通者我等娘おふりニ讓申所実正也

元録九年丙子正月日

成川八右衛門

忠兵衛殿
彦兵衛殿
吉兵衛殿

右おふり江之書物之儀者金三拾兩相渡、刀一腰・旅茶弁当相渡申候、尤
屏風替り二者為家絵一幅相渡、後家方江金子計請取証文在之候由

右之通書物并帳式冊、両五人組立合連判相調預ケ置者也

元録十四年巳十二月廿二日

乍恐以書付申上候

一、下船横町太郎治五人組八右衛門・彦兵衛・五郎兵衛、名主勘解由申
上候、太郎治祖父八右衛門与申者同町ニ而表五間口之家屋敷并家財共
孫太郎治江讓状仕、九年以前丑年八右衛門儀病死仕候、太郎治親長十郎
与申者同年病死仕候、其節太郎治儀ハ七歳ニ罷成申候ニ付、長十郎親
類大伝馬町壺丁目三十郎・庄兵衛与申者方江右家屋敷売券状・遺言
状共預ケ置申候、則長十郎手代庄次郎与申者家屋敷家守為致、太郎
治儀母与一所ニ罷在候処、庄次郎儀後家氣ニ入不申候ニ付、庄次郎暇
遣可申旨申候得共、太郎治親長十郎申付置候儀御座候間、五年以前
巳十一月 保田越前守様江奉窺候処、双方被召出御詮儀之上、同
十二月十八日 松前伊豆守様御内寄合江被召出、後家申上候通庄次

郎儀暇遣、名主・五人組家守見立差置候様被仰付候、尤三十郎・庄
兵衛預り置候書面之儀、名主・五人組預り店賃勘定承候而太郎治成
人仕相渡候様被仰付候、其節より市兵衛与申者二家守為致申候、尤
当二月迄勘定相違無御座候、右太郎治義当年十五歳ニ罷成、其上母
一所ニ罷在候間、遺言状・沽券状共太郎治方江相渡申度奉願上候、
依之奉窺候、以上

宝永二年酉五月

下船横町太郎治
五人組 八右衛門
同 彦兵衛
同 五郎兵衛
名主 勘解由
太郎治 母

御奉行所様

一、下船横町名主勘解由・町人共申上候、町内八右衛門屋敷表五間口之
家屋敷致所持候処、丑七月致病死候ニ付、右家屋敷を孫太郎治ニ讓
申候由遺言致置候所、其節太郎治幼少ニ付、私共右八右衛門家屋敷
并売券状壺通・遺言状壺通預り申候而差置候処、太郎治成人仕、右
家屋敷を相渡申度旨、当五月御訴詔申上候得者今日御内寄合江被召
出、願之通右太郎治江家屋敷・書物等并宿賃勘定相立渡可申旨被仰
付、難有奉存候、為後日申上候由、右之勘解由・太郎治五人組彦兵
衛・五郎兵衛・八右衛門、則太郎治召連同意ニ申來候

宝永二年酉七月十八日

右者元録十四年巳十二月十九日言上帳末ニ記 河内守様御組御当番
永井藤八殿

前書之通 松野河内守様御内寄合江罷出被仰付、則家屋敷并書物等相渡候様被仰付候、右之言上御帳之末ニ記置候、尤印を不致候、但丹羽遠江守様御番所江者先年兩御番所之言上帳写帳面ニ相認、奥書も兩御番所之通ニ仕、前方印形不殘相調七月廿日朝差上申候、遠江守様御組当番善九郎殿

右之通同廿七日兩五人組・親類立合太郎治母方江家屋敷・書物等相渡埒明候、則請取手形共此袋ニ有之候

宝永二年酉七月廿七日

(五五) 脱力

大伝馬町式丁目美濃屋太兵衛遺言状并言上帳之事

書置申讓状之事

一、娘おあきニ金百兩、同おとめニ金五拾兩讓申候、兩人共致成候ハ、此金子を以縁付可申候

一、金五拾兩者母おやす方江寺參錢ニ讓申候、おいぬ・権兵衛共母を孝行ニ致、諸事相背申間敷候

一、金拾兩者八町堀弟仁右衛門方江遺申候

一、金拾兩者本所姉方江遺物ニ遺申候

右兩人者前々より種々不屈ニ付、日頃不通致病中ニも面談不致候、然共少々遺物遺申候、死後ニも弥出入為致申間敷候、今度我等相煩候ニ付与風相果候ハ、何も御立合被成、書付之通御渡可被成候、右之外ハ金銀・家財不殘娘おいぬニ讓申候、日柄立候ハ、手代権兵衛与立合被成夫婦被成、我等名跡相統仕候様頼上申候、右姉・弟方江

金子御渡候ハ、重而出入不仕候様御申渡可被下候、私儀目見え不申、手ふるい筆ニ而書申事成不申候間、埒見え申間敷与存候
一、おいぬ・権兵衛ニ申入候、諸事梅屋弥次兵衛様・同利右衛門殿御差図を請相背申間敷候、為後日仍如件

元禄十五年午五月三日

みのや
太兵衛

家主

神戶屋市郎兵衛様

相店

朝田屋弥兵衛様

仲ヶ間

伊勢屋弥右衛門様

(ママ) 珠書
「七」

一、大伝馬町式丁目市郎兵衛申上候、私店業種屋太兵衛与申者永々相煩候処、先月廿三日相果申候、病中遺言状相認封置申候、然ル処太兵衛不通ニ而罷在候姉本所緑町式丁目平助店太郎左衛門後家并太兵衛弟八丁堀老丁目七左衛門店仁右衛門參、遺言状之事兎や角申候ニ付、遺言状封之儘差置当御番所江御伺申上候処、家主・五人組・名主立合遺言状開可申旨被仰付候間、右之通立合候而開見申候得者、太兵衛式番目之娘あきニ金百兩、三番目之娘とめニ金五拾兩、太兵衛後家ニ金五拾兩相讓候、姉并弟仁右衛門義兼而不届故不通ニ而病中ニも面談不申候得共、姉方江金拾兩、弟仁右衛門江金拾兩相讓申候、金子相渡重而出入致させ申間敷候、其身病氣無本腹相果候ハ、右之通何も立合金子相渡可申候、其外金銀・家財不殘惣領娘いぬニ相讓申

候、死後日柄相立候ハ、手代権兵衛与娘いぬ夫婦ニ致跡式相立可申候、尤梅屋弥次兵衛・利右衛門方よりいぬ・権兵衛差図を請可申候由、太兵衛自筆ニ書置申候間、右遺言状昨日当 御番所江持参仕御窺申上候処、弥太兵衛遺言状之通可仕候、為後日御帳ニ記置候様被仰付候由、右之家主市郎兵衛、五人組善三郎・新四郎・九兵衛、名主勘解由并太兵衛後家・手代権兵衛・相店弥兵衛・大伝馬町式丁目宗恕店弥右衛門・同店清兵衛・馬喰町三丁目弥次兵衛・利右衛門・長谷川三四郎店市郎左衛門同意ニ申来

元録十五年午八月八日

大伝馬町式丁目太兵衛

家主

市郎兵衛

五人組

善三郎

同

新四郎

同

九兵衛

名主

勘解由

太兵衛

後家

太兵衛手代遺跡

権兵衛

相店

弥兵衛

同町宗恕店

弥右衛門

仲間

清兵衛

同店太兵衛妹婿

弥次兵衛

馬喰町三丁目

利右衛門

後家親

弥次兵衛

後家弟

利右衛門

長谷川三四郎店権兵衛

市郎左衛門

親分

右之通太兵衛遺言状家主市郎兵衛預り候ニ付 保田越前守様江御申上上候処、名主・五人組立合開候様被仰付、則披見致同七日持参致申上候処、遺言状之通仕候様被仰付、則言上御帳ニ附参候、太兵衛姉并弟仁右衛門

呼寄遺物金相渡、請取手形者家主方ニ納置候、遺言状之写言上帳ニ写

〔七〕 覚

一、遺跡之儀、存生之内相定候儀者町年寄方遺跡帳面ニ相附、死後出入ニ罷成候儀者御裁許相濟、言上御帳面之趣是又町年寄方帳面ニも相附申候所、近キ頃者猥ニ罷成、自今者前々之通急度町年寄方帳面ニ相付可申候

丑五月

右四通り之御書付之趣、各々様御立合ニ而一々被仰付、慥承届申候間、町中家持者不及申借屋・店借裏々迄為申聞、向後右之趣違背不仕、急度相守可申候、為後日名主共御帳ニ印形仕置候、以上

享保六年丑五月十九日

右者新規蔵・有来蔵・建直蔵・床火之見櫓・穴蔵願之儀、湯屋名題所替之儀、仲間有之商人諸願之儀并有来蔵修復之節届方之儀、右品々々条書一所ニ被申渡ケ条之内ニ而候、尤右品々々其趣々類寄之所写置候事

〔八〕 遺跡御帳付之儀、家督弘之儀、御触流願之事

以書付申上候

一、存生之内相極候儀、遺跡御帳ニ相附候様被仰渡候処、近キ頃ハ忘却致候哉、右御帳ニも相附不申候ニ付及出入候類有之候間、先年被

仰渡候通遺跡御帳ニ相附候様支配く江別而入念可申渡旨、猶又此度被仰渡奉畏候、此段町々家持共之儀者当人共不心付候而も拙者共方より致吟味、御帳ニ相附候様仕候得共、地借・店借之者迄吟味行届不申義も御座候ニ付、家主共并当人不心付候得者御帳ニ不相附類間々可有御座奉存候、依之奉願候者遺跡御帳ニ可相付筋ヶ条御書付被遊、若自今相背御帳ニ於不相付者急度御咎可被仰付段、此度町中御触流被下候様此度奉願候、存生之内相極候儀、御帳相付候様ニ計御触有之候而者、可相附筋相付間敷筋心得違候儀も可有御座候間、右申上候通可相付筋委細ヶ条御書付被遊、御触流有之候様仕度奉存候

一、町々ニ而家督讓請候ハ、早速弘可仕処、近頃者猥ニ罷成、弘メも不仕様、此度御触有之候様仕度奉存候

右之通奉願候、以上

享保十七年子五月

年番

名主共

〔九〕^{〔朱書〕} 遺跡御帳ニ可相付儀、不相付儀、伺之上被仰付候ヶ条

以書付奉窺候

一、実子惣領家督相統之事

一、実子無之養子仕先達而弘メ致置、相統仕候上者実子同前之事

一、惣領者外江片付又者病身ニ而相統難成、二男・三男致相統候事

右三ヶ条者遺跡御帳ニ相付候ニ及申間敷候、尤弘メ致置不申候分者御

帳ニ相附可申候事

一、実子幼年ニ付、後見相極相統致候事

一、男子幼少ニ而女子ニ婿取候事

一、当人相果後見ニ入夫取候事

一、病中遺言状相認死後ニ至遺言状之通諸親類相談之上、何之無相構跡

式相統人相極候分者言上御帳ニ相付不申、遺跡御帳ニ附置申度奉願候

右之類遺跡御帳ニ相附可申候、尤此外ニも右ニ准候跡式之儀者不殘御帳ニ

相附可申候、縦地かり・店借ニ而も他町ニ家屋敷所持仕候程之者家督之

儀、前書之通遺跡御帳ニ相附可申候、以上

享保十七年子閏五月

年番

名主共

御下知 此一件書面之通可致候事

〔十〕^{〔朱書〕} 町人病死之節其子幼少ニ而後見相附候儀ニ付御尋并返答書

一、町人病死之節其子幼少ニ而親類之内江後見類、其家も預り候節者諸親類

并名主証文を以相届置申事ニ候哉、右躰之町人若急病ニ而相果、後見

親類之内江頼可申候節者諸親類共寄合後見相極、証文を以名主江断

置申儀ニ候哉之事右後見之儀奉行所江不願出も有之、名主江者届置候

定メ有之候哉、後見相極候得者遺跡帳ニ都而記置候事ニ候哉

右返答書

一、町人病中ニ遺言申置相果候節、其子幼少ニ而親類之内或者家来之内

ニ而も後見相極候儀遺言ニ相違も無之、其上諸親類何之申分も無之

候得者、内証ニ而諸親類より証文等名主方江取之候而相濟置候儀も多

クハ御座候、右之筋ニ而も後日ニ出入等ニも罷成様ニ相見え候儀者

遺跡帳并言上御帳ニ相附申候

一、急病ニ而遺言等も不申相果候以後、親類之内并家来ニ而も後見相極候儀者遺跡帳并言上御帳ニ相附申候、併一類之内ニ何之申分も無之、後日ニ出入ニ可罷成筋合相見え不申儀者、右之通内証ニ而入念証文取相濟置候儀も御座候

右之趣ニ御座候得者品ニ寄り少者致方違候儀御座候、以上

申正月十四日

- 大伝馬町
- 勘解由
- 田所町
- 平蔵
- 通巻丁目
- 藤次郎
- 平松町
- 孫三郎
- 南伝馬町
- 主計
- 通新石町
- 善右衛門
- 湯島町
- 六右衛門
- 弥左衛門町
- 伝左衛門
- 西紺屋町
- 五郎左衛門

右者元文五年申正月十四日樽屋より御尋ニ而書付御渡被成候ニ付、同日右之通返答差出候

〔実書〕
十一 以口上書御願申上候事

一、私儀年罷寄行歩相叶不申御公用向難勤御座候ニ付、去年中悴勘次郎与親子勤奉願候得者、早速三御奉行様江御目見被為仰付、首尾能相濟難有奉存候、段々御用勘次郎差出為見習相勤申候、私儀養生仕候得共病快氣不仕、其上乍恐下痔痛迷惑仕候、依之此度御役御免被遊候跡役勘次郎為相勤申度奉願上候、名主役悴ニ被仰付被下候様宜被仰上被下候ハ、可被忝候、以上

戊二月
馬込勘解由殿

四谷
孫右衛門

右之通此方江願書差出候ニ付、四谷町々月行事呼寄跡役願之儀得心之上、此方より別紙相認奈良屋殿江差出、同三月九日役儀被仰付候

差上申手形之事

一、四谷伝馬町下名主孫右衛門儀病氣ニ付、跡役之儀悴勘次郎ニ被仰付被下候様、上名主勘解由・下名主同役半四郎并町中奉願候処、願之通被仰付候旨被仰渡難有奉存候、然上者向後諸事御法度御触事等拙者共者不及申借屋・店借・地かり共迄、右勘次郎差図請相守可申候、為後日町中連判差上申候、仍如件

上名主 勘解由
下名主 半四郎

町三人
年寄衆中

右勘次郎願之通被仰付難有奉存候

右之通拙者儀下名主役被仰付難有奉存候、然上者向後諸事入念相守可申候、以上

戊四月

下名主 勘次郎

右之通町中連判之手形貴殿與判を以今度 御公儀江差上申候、然上者右本文之通堅相守、拙者共者不及申借屋・店借・地かり等迄勘次郎支配請可申候、若致違背候ハ、何様ニも可被仰上候、為後日連判仍如件

戊四月

四谷伝馬町壱丁目家主	拾六人
同 新壱丁目家主	拾六人
同 式丁目家主	貳拾八人
同 三丁目家主	三拾人
同 塩町家主	廿壹人
同 式丁目家主	廿貳人
同 三丁目家主	廿八人
同 奥判	半四郎
勘次郎	勘次郎

右之通惣連判此方江差出入、本紙別ニ有之

四谷下名主勘次郎寛保元年酉二月四日病死ニ付、悴弥太郎名主役被仰付可被下旨、四谷月行事・年寄并相役半四郎方より願書共一件

以書付御願申上候

一、名主勘次郎儀先月四日病死ニ付、跡役之儀悴弥太郎名主役被仰付被下候様惣町之者共一同奉願候、無相違被仰付候様御願被成可被下候、為其書付を以申上候、以上

寛保元年酉三月

四谷伝馬町壱丁目	月行事	吉兵衛
同新壱丁目	月行事	惣兵衛
同式丁目	同	文左衛門
同三丁目	同	徳石衛門
同	同	長次郎
塩町壱丁目	同	喜兵衛
同式丁目	同	吉兵衛
同三丁目	同	弥五兵衛
同	同	所左衛門

馬込勘解由殿

以口上書申上候

一、同役勘次郎儀先月四日病死仕候ニ付、跡役之儀惣町之者共別紙を以御願申上候通、悴弥太郎無相違被仰付候様御願被成可被下候、為其以書付申上候、以上

寛保元年酉三月

四谷名主 半四郎

右願書三月廿六日持参仕候事

一札之事

一、私親勘次郎儀享保十四年寅年証文仕差上置申候通、私先祖御家相勤候ニ付家守役被仰付候ニ付、此度御見セ被成逐一承知仕候、然所親

勘次郎勤役之内不勤ニ御座候ニ付、此度代替ニ付思召も御座候処、相役半四郎并町内年寄・町人共ニ願ニ付、貴殿下名主役御願被下忝仕合奉存候、依之親勘次郎仕候証文之通常々為申聞置候間每度承知仕候、然上者急度相守御役大切相勤、若不及了簡儀者貴殿江度々御窺申御差図請可申候、勿論御役庵末仕候歟身持不行跡ニも御座候ハ、貴殿御願之上、御役儀可被召上候、為後日代替添証文仍如件
寛保元年酉四月
高橋弥太郎

馬込勘解由殿

右証文四月九日取候、以後家守請狀判元改ニ藤九郎差遣、同廿五日弥太郎相役半四郎同道ニ而此方江參候、尤明日御願ニ可罷出旨申渡

以口上書奉願候

一、四谷伝馬町私下名主勘次郎儀当三月中病死仕候ニ付、跡役之儀勘次郎悴弥太郎事孫右衛門与改為相勤申度奉存候、尤相役半四郎并町人共私同意奉願候、以上
寛保元年酉四月廿六日

名主

勘解由

町三人

年寄衆中

右願書月番樽屋御役所江差出候、尤同文言ニ而奈良屋・喜多村江も相届申候

一、四谷伝馬町勘次郎跡弥太郎、明後朔日五ツ時召連可被參候事

四月廿八日

樽屋役所

右之通樽屋より御配府ニ付、朔日五時孫右衛門召連罷出候事

寛

一、四谷伝馬町

家持

孫右衛門

町人三四人

下名主

半四郎

名主

勘解由

右申渡儀有之候間、明八日五半時樽屋所江可被參候、以上

五月七日

町年寄

三人

差上申手形之事

一、四谷伝馬町名主勘次郎病死仕候ニ付、跡役之儀悴孫右衛門ニ被仰付被下候様、名主勘解由方江下名主半四郎并町中より願書差出候処、勘解由御願申上、私共願之通被仰付候旨被仰渡難有奉存候、然上者向後諸事御法度・御触事等拙者共者不及申借屋・店借之者共迄、右孫右衛門差図を請、急度相守可申候、為後日町中連判之手形差上申候、仍如件
寛保元年酉五月

四谷伝馬町新壹丁目

喜兵衛

外 拾四人

同伝馬町新壹丁目

六兵衛

外 拾五人

同伝馬町式丁目

善兵衛

同伝馬町三丁目
外 廿七人

彦兵衛
外 廿九人

同塩町壹丁目

吉左衛門
外 廿壹人

同塩町貳丁目

新右衛門
外 廿三人

同塩町三丁目

伊左衛門
外 廿六人

町三人
年寄衆中

右孫右衛門願之通被 仰付難有奉存候、以上

名主 勘解由
下名主 半四郎

右之通名主勘解由下名主役被 仰付難有奉存候、然上者向後諸事入念急
度相守可申候、以上

下名主 孫右衛門

右之通帳面三冊町年寄衆江五月十五日孫右衛門江為持遣入、此方江者左之
通連判帳面取置申候事

差上申手形之事

一、四谷伝馬町下名主勘次郎病死仕候ニ付、跡役之儀悴孫右衛門ニ被仰

付被下候様、名主勘解由方江下名主半四郎并町中より願書差出候処

勘解由御願申上、私共願之通被仰付候旨被仰渡難有奉存候、然上者
向後諸事御法度・御触事等拙者共者不及申借屋・店借・地かり之者
共迄右孫右衛門差図を請、急度相守可申候、為後日町中連判之手形
差上申候、仍如件

寛保元年酉五月

町三人

年寄衆中

手形之事

一、四谷伝馬町貴殿下名主勘次郎儀当二月中病死仕候ニ付、悴弥太郎事
孫右衛門与改、町中并相役半四郎一同貴殿江御願申上候処、御聞届
之上則貴殿方より下名主役御願被成被下候処、拙者共願之通跡役無
相違被仰付難有奉存候、然上者向後諸事御法度向・御触事等拙者
共者不及申借屋・店借・地借之者迄右孫右衛門差図請、急度相守可
申候、為後日町中連判之手形仍如件

寛保元年酉五月

町中連判

名前前書同断

前書之通貴殿下名主役御願之通被 仰付難有奉存候、然上者向後御法度
向・御触事等貴殿より被仰次候趣、急度相守可申候、以上

西五月

下名主

孫右衛門

右之通相役勘次郎悴孫右衛門願之通御聞届之上、貴殿より御願被成跡役
無相違被 仰付難有奉存候、以上

西五月

孫右衛門相役
半四郎

右連判帳別ニ本紙有之候事

下名主半四郎悴勘兵衛見習御目見仕度段此方江半四郎自筆ニ
而書付出ス

- 一、私祖父勘兵衛相勤候節、五拾三年前元録三午年御願申上、悴平兵衛儀見習御目見仕父子ニ而相勤申候、勘兵衛儀元録十一寅年病死仕、平兵衛ニ跡役被仰付候

右之通少茂相違無御座候、以上

戌九月

- 一、寛保二戌九月十二日半四郎悴勘兵衛儀見習御目見、町年寄衆江旦那御連被成候、奈良屋御月番
- 一、同十二月十一日奈良屋御役所より御配府ニ而勘兵衛儀来ル十八日御内寄合江被召出、則見習御目見被仰付候
- 一、同十八日朝五ツ時勘兵衛父子共御召連御出被成候事
- 一、右勘兵衛事栄次郎与申候処、名御付可被下段願ニ付、同年七月七日勘兵衛与名改被遣候事

^(朱書)
十二

御能町人共江拝見被仰付候節、四谷伝馬町五拾人拝見仕、御錢之儀者三拾九貫文頂戴仕来候、如何之訳ニ而御錢無数有之

候哉与御尋ニ御座候、左ニ申上候

- 一、五拾人
御錢三拾九貫文頂戴仕候

四谷伝馬町

壹丁目
貳丁目
三丁目
新壹丁目
塩町壹丁目
同貳丁目
同三丁目

- 一、五拾壹人

御錢五拾壹貫文頂戴仕候
外ニ月行事江三貫文頂戴仕候

大伝馬町

壹丁目
貳丁目
塩町

右四谷伝馬町御能拝見被仰付候節、御能拝見ニ五拾人罷出御錢三拾九貫文頂戴仕候儀者、古来九拾貫文外ニ月行事三人江三貫文大伝馬町壹丁目・貳丁目・塩町共三町分江頂戴仕候処、寛文年中四谷伝馬町ニ而七町之間明地面拝領被仰付候ニ付、御能拝見人数之内四谷伝馬町江者月行事ニ頂戴之御錢無御座候、其後拝見之人数無御座候ニ付五拾人ニ御願申上候由、頂戴之御錢之儀者、古来大伝馬町より割遣候高之通ニ而拝見之人数より御錢不足之由承伝申候、依之隣町与者大伝馬町江拝見被仰付候人数頂戴之御錢無数ニ御座候、拙者帳面等先年焼失仕候ニ付、四谷伝馬町ニ而何時人数之増御願申上候哉、書留無御座候得共右之通申伝候、以上

西八月十三日

大伝馬町
名主 勘解由

右者寛保元酉年奈良屋ニ而御尋ニ付差出ス